

[広報ひろさき]

hirosaki

Contents

特集

農業で生きる。

市政情報

- ◆津軽圏域の地域医療を担う新中核病院の整備がスタートします
- ◆認定こども園・保育所利用申し込み受け付け
- ◆マイナンバーカードの出張申請を始めます
- ◆市税・国民健康保険料・介護保険料ペイジー口座振替キャンペーン ほか

フォトコレ in ひろさき

ひろさきりんご収穫祭、弘前市総合防災訓練、高照神社馬場跡活用イベント ほか

学生企画コーナー

もっと②♥弘前!!

暮らしの information

イベント、教室など

Health Information

健康の掲示板

smile 通信

さらっと一句・川柳

弘前市立図書館近着図書紹介
食改さんおすすめレシピ
THE 弘前人

特集

農業で 生きる。

どうやって
始めたの？

なんで
「農業」？

どんな
暮らし？

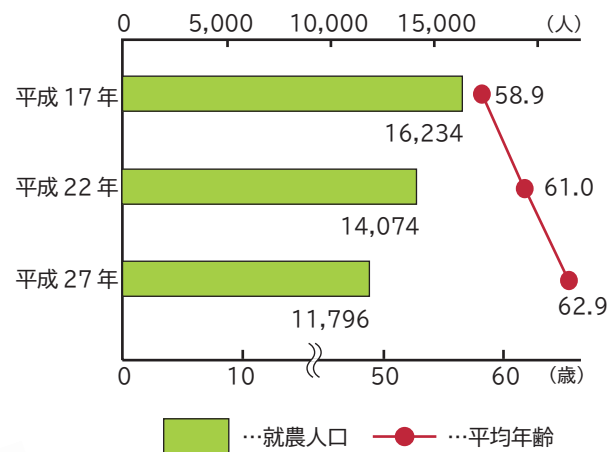
" 農業 " を職業に選んだ 若手農業者たちの声を聞きました。

農業はいま、「後継者不足」「労働力不足」など、大きな課題に直面しています。これらの課題に対して、市・県・国では、就農する人が農業で生計を立てられるよう、さまざまな支援や取り組みを行っています。

今回は弘前の若手の農業者にスポットを当て、就農までの道のりや現在の暮らし、これからの目標などを語ってもらいました。

※今号の表紙は今回インタビューした3人（左から齋藤良彦さん、舘山華江さん、佐久間康幸さん）。

弘前市の就農人口・平均年齢の推移



出典：農林業センサス

現在、当市の農業就業人口は減少し、平均年齢が上がっています。このことから、若い年齢層の農業就業人口が減少していることが伺え、将来的に担い手の減少が心配されます。

※ここでの農業就業人口とは、自営農業に従事した世帯員のうち、専業、兼業に関わらず、主に自営農業に従事した人のこと。

「やってみたい！」
その気持ちを
大切にしたい。

さいとう よしひこ
齋藤 良彦 さん (36)
平成 24 年就農（熊嶋）
イチゴ農家

自分が作ったものを届けたい

以前は服飾販売の仕事をしていましたが、「自分で作ったものをお客さんに売る仕事も面白いのでは」と思い、農業を始めました。農業は自分が手をかけたことを買い手に伝えられる仕事だと感じる場所があったので。

まずは相談と情報収集

農業の情報も農地もない状態からのスタートだったので、まず市や県の職員の人たちに相談し、いろいろ教わりました。狭い面積でできるハウスを使った施設園芸の研修に参加したり、初期投資や当面の生活費はどれくらい貯めたらいいか助言をもらったりと。補助金の情報もいち早く知ることができ、計画的に資金などの準備ができました。

イチゴで商売するには

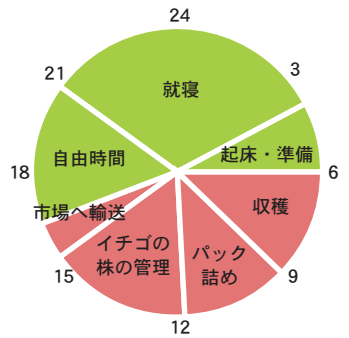
イチゴを選んだ理由は、まずイチゴが苦手な人を見たことがないこと。そして、商売として考えた時に、洋菓子店のように一定量を仕入れてくれる買い手に向けて、安定した体制で生産できれば成り立つのではと考えました。

現在は地元の市場や他県の洋菓子店との取り引きをメインにやっています。スーパーのイチゴが品薄になる時期に問い合わせがあるので、インターネットで検索した時に自分の名前が出るようにするなどの工夫もしています。



◀業務用の品種「すずあかね」は洋菓子に合う強い酸味が特徴。そのまま食べるよりスムージーにするのがおすすめ。

▼収穫期（5月～11月ごろ）の1日のスケジュール。作業は全て齋藤さんが一人でこなす。



▲作付面積は約400坪。イチゴと時期をずらしながら、ネギ、アスパラガス、葉物野菜も年間を通して栽培している。

家族とのかけがえのない時間

毎日の暮らしの中で、家族の時間を一番大切にしています。作業を一人でやっているの、収穫時期は作業時間が長くなることも。そんな時は、作業の段取りなどを調整し、家族との時間をなるべく多く取るようにしています。家族で出かけることもよくあり、公園など、子どもを連れて日帰りで行ける場所は片っ端から攻めています（笑）。

目指していること

農業は天候に左右される分、収入が安定しないので、少しでもリスク分散し、ある程度一定にしていきたいです。そのために、付加価値があるものや高品質なものを作っていきたいですね。チャンスがあれば加工品の開発にも挑戦したいと思います。

ひろさき農業サポート情報①

就農初期の経営をサポート

農業次世代人材 投資資金

安定的な農業経営による地域農業の振興と意欲ある農業後継者の確保のため、就農直後の経営確立を支援する資金を交付しています。

■問い合わせ先 農業政策課農業振興係（☎ 40・0767）